

～鳥取県日南町～



“林業でまちづくり”を！



産業建設厚生常任委員会
委員長 藤本 岩義
(海士町菱浦港にて)

6月26日午後、2日間、研修した海士町を出港し、米子市泊、翌朝、27日島根、広島、岡山の各県と接する県境の町鳥取県日南町(人口4,364人、高齢化率50%超)を訪れました。

この町では林業を生かした町づくりを目指しており、鳥取大学とも連携し、林業アカデミーで研修生を募集し後継者(町内に50%移住)を育てています。また、作業も見直し高性能林業機器(42台)の導入を図り、コストの50%削減を行っています。平成18年には町、森林組合、400名を超える地域資本でLVL製材工場(株)オロチを設立、従業員70人の雇用を生んでいます。



町の材250年の大木がメインと座る庁舎交流ホール



庁舎・情報交流センターは、木材をメインに建築され平成14年に完成、「人と自然が共生出来る町」として、豊かな自然環境を後世に継承することを念頭に建設されています



100%町産材を活用した会議室にて

日南町議会の村上議長、小菅林政アドバイザー(農学博士)から日南町の現状と今後の林業政策を伺いました。平成16年に3万m³だった町産材を12万m³に増量を目指しています。

相見工場長から説明を



集材された曲がった間伐材も有効活用

1台数億円の加工機器が何台も24時間体制で



完成し出荷を待つ製品

町、森林組合、地域資本で設立された製材工場、(株)オロチ(資本金9400万円、年商12億円)は2万3千m²の広い敷地に建設されたLVL(単板積層材)製材を生産する工場です。従業員は70人で24時間稼働を行っています。

この会社は、町が地域再生計画「地球環境に優しい新森林業の形成」の認定を受けたことを背景に、平成18年森林業、木材加工業の振興や地域の活性化(雇用の創出、及び現在の販売は順調で黒字経営ですが、従業員が不足増産ができないとのことでした。

森林資源の有効活用を図るために設立されたこと。間伐材も有効活用できることから、伐採、再造林が行われるなど、計画的・効率的に森林経営が行われ、森林の公的機能も回復してきます。曲がった木材もOKで丸太の皮むき後、蒸気蒸し、玉切り、かつらむき、乾燥等の工程を済ませ、注文に応じた長さ(9mまで可能)、厚さにプレス加工するので建築現場での廃材が少なくなるそうです。

なお、四万十市の図書館用もここで加工されています。